

九州支部だより



No. 106 2010年3月

平成21年度 日本気象学会九州支部発表会報告

九州支部会員の研究発表・交流のために毎年開催している「日本気象学会九州支部発表会」を、今年度は2010年3月6日（土）に福岡管区气象台で行いました。今年の発表題数は17題と、この数年では少なめではありましたが、活発な質疑応答がなされ、予定していた時間をオーバーし閉会となりました。

講演者ならびに運営に協力いただいた皆様のおかげで発表会を終えることができました。この場をお借りし、お礼を申し上げます。

※今年度のプログラムは下記をご覧ください。

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/msj-kysh/happyoukai/paper/program.pdf>

支部発表会の写真



開式の挨拶（田中理事）



閉式の挨拶（伊藤理事）



発表の様子

平成21年度 九州支部奨励賞授賞報告

九州支部では研究を本務としない支部会員または若手支部会員で、「気象学の向上に資する研究を行っている」「気象学の教育・啓発活動を積極的に行っている」「気象学を応用した活動で社会に貢献している」のいずれかに該当する方に「支部奨励賞」を贈呈しています。

本年度は江口健太氏、龍山康朗氏、濱邊和人氏の3名が奨励賞を受賞されました。



受賞された3名の方には、以下の通り行われた贈呈式において、西出支部長より賞状及び記念品が贈呈されました。

※なお、当日はRKBのテレビ撮影があったためか、緊張した雰囲気で行っていきま

■平成21年度九州支部奨励賞贈呈式

日時：2010年3月6日（土） 13:05～13:15

場所：福岡管区气象台 大会議室

※次ページ以降に、受賞様子をご本人の喜びのコメント、さらに推薦者及び推薦理由を掲載します。

【受賞者：江口健太（九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻 博士1年）】



私は気象学を始めて数年で、他のお二方に比べ気象に対する貢献は微々たるものなのですが、この賞を励みにこれからも精進してまいりたいと思います。

推薦者：竹村俊彦（九州大学応用力学研究所 准教授）

推薦理由：江口健太会員は、2007年に九州大学大学院総合理工学府大気海洋環境システム学専攻へ入学後、人工衛星データ解析値や数値モデルを用いて、大規模黄砂現象時の黄砂の詳細な輸送構造解析に精力的に取り組んできた。

その中で、エアロゾルの鉛直分布を検出することが可能な人工衛星搭載レーザーレーダーCALIOP（カリオプ）のデータと、全球エアロゾルモデルSPRINTARS（スプリンターズ）のシミュレーションを用いて、2007年5月8～9日に中国タクラマカン砂漠で発生した大規模な黄砂が、高度8～10kmの上部対流圏まで巻き上げられ、偏西風により地球を約13日で一周する様子を示した。

この研究成果は、江口会員本人が学術雑誌で発表した他、共著としてNature Geoscience誌にも掲載され、世界的に大きなインパクトを与えた。また、2009年に九州大学総合理工学府賞を受賞し、2010年度からは日本学術振興会特別研究員（DC）に採用が内定している等、研究能力は対外的に認められている。

以上の業績、および、今後のさらなる活躍が見込まれることから、江口会員を日本気象学会九州支部奨励賞受賞候補者に推薦する。

【受賞者：龍山康朗（RKB 毎日放送アナウンサー）】



15 年ほど気象キャスターをやっている中で、人に直接ものを伝えることの大切さを感じ、人と直接ふれあえるような講演会や実験会を小学校・公民館・文化センター等で行ってきました。自分が好きでやっていることなので 15 年間続けることができましたが、どこかで見ている人がいて、このように推薦していただいたと思います。学会員になったのも昨年度からで、ほんとに若輩でまだまだ勉強も足りませんが、このように立派な賞そして賞品をいただけて大変うれしく思います。ありがとうございました。

推薦者：弘中秀治（日本気象予報士会西部支部 副支部長）

推薦理由：龍山康朗（たつやまやすあき）会員は、1995 年 3 月に、アナウンサーとして、国内初の気象予報士となり、RKB 毎日放送にて、月曜から金曜の気象情報番組を担当しながら、様々な一般市民への気象学普及活動に取り組んでいる。

1996 年からは、福岡市百道浜公民館において、一般を対象とした「お天気教室」を毎月 2 回開講し、その回数は延べ 300 回を超えている。

2005 年には、お天気をはじめ自然科学についてわかりやすくまとめた『たっちゃんの気象転結』を出版。

2008 年からは、久留米工業大学環境共生工学科非常勤（准教授）として、「大気環境学」を開講（現在も継続中）。

2009 年には、日本気象学会秋季大会にて「エフコープが取り組む環境測定活動について」発表。

この他、公民館や小学校などで、気象、天気、宇宙、環境に関する講演や実験を多数開催している。

このような活動を通して、幅広い層の市民にわかりやすく気象学を説くと共に、気象の楽しさを学ぶ機会を積極的に提供している。その精力的な活動は、気象学の普及に十分貢献しており、奨励賞授与に値するものとして、ここに推薦するものである。

【受賞者：濱邊和人（鹿児島地方気象台観測予報課）】



私が気象に携わったのが入庁してからの約5年です。まだまだ勉強中の若輩者ですが、諸先輩の方の前でこのような素晴らしい賞を受賞できたことを嬉しく思います。これからなるべく気象学会に貢献できるように頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

推薦者：用貝敏郎（鹿児島地方気象台 観測予報課長）

推薦理由：濱邊和人会員は、平成17年度に気象庁入庁（名瀬測候所）、現在は鹿児島地方気象台で週間予報や季節予報に携わっている。

入庁直後から調査・研究・開発に精力的に取り組んできている。平成18年度には、気象庁非静力学モデル（JMANHM）を使い「2006年梅雨時期における奄美地方の大雨の事例解析」を行い、「奄美地方の災害データベース構築」も成し遂げている。また、昨年7月22日の皆既日食当日に、4万件以上のアクセスを記録した「鹿児島地方気象台の皆既日食HP」も作成した。このように、気象の現場で業務運用上最も必要とされる調査・研究・開発を率先して行っている。

さらに、平成21年度は気象庁内のプロジェクトの一環として取り組んだ「九州南部における突風関連指数についての考察」で、竜巻の予測に大いに役立つ手法を考案した。

気象情報等に付加する「竜巻」キーワードは、突風関連指数だけで付加を判断できる場合は非常に少なく、予報官の総合的な判断に委ねられているのが現状である。規準化という客観化につながる概念を持ち込むことによって、突風関連指数だけで予測を行うよりも、適中率が高くなり、精度が向上することを示した。

このように、業務の傍ら、気象の現業作業に有効利用される調査・研究・開発に積極的に取り組む姿勢は、他の職員や気象の機構解明に取り組む者の範となるものであり、奨励賞授与に値するものであることから、ここに推薦するものである。

九州支部事務局からのお知らせとおねがい

「九州支部だより」の原稿募集

九州支部事務局では、九州支部だより No. 107 (平成22年7月頃発行予定)の原稿を募集しています。皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

転勤等で異動される時には

転勤等による異動の際は、新しい住所と所属を九州支部事務局まで連絡していただくようお願いします(電話・ファックス・E-mailでも可)。本部または異動先の支部(他支部への異動のとき)への報告は当支部で行いますので、会員の方の異動先での手続きは必要ありません。

平成22年3月 発行

〒810-0052 福岡市中央区大濠1-2-36

福岡管区气象台技術部気候・調査課内 日本気象学会九州支部

TEL: 092-725-3614 FAX: 092-761-1726

E-mail: msj-kysh@zb4.so-net.ne.jp

<http://www006.upp.so-net.ne.jp/msj-kysh/>